

中比重ファイバーボード (MDF) の比重は 0.66, はく離強さ 8.1 kgf/cm², 常態曲げ強さ 377.6 kgf/cm², 常態曲げヤング係数 32.3 tonf/cm², 湿潤曲げ強さ 236.8 kgf/cm², 湿潤曲げヤング係数 17.7 tonf/cm², 吸水厚さ膨張率 4.2% であり, 各項目とも JIS の基準 (MDF, 30 タイプ) を満たしていた。

6. 床下地材としての利用適性

degluhta のみ試験した。床の転倒衝突時硬さは非架構式 (直置き) で A が 146.4 G, B が 151.3 G であった。

また, 架構式 I (支点間距離 30 cm) で A が 115.1 G, B が 116.8 G, 架構式 II (同 45 cm) で A が 92.0 G, B が 96.4 G であった。

7. 内装材適性

degluhta のみ試験した。吸音率は 0.01 (32 Hz) から 0.10 (2 kHz) であった。熱伝導率は 0.112 kcal/mh°C であった。

図書紹介

◎地球温暖化と森林・木材—森と木と人のつながりを考える—日本林業調査会編 A5 版 264 pp. 日本林業調査会, 東京, 1998. 10 刊 定価 3,000 円 (税込)

地球温暖化の現象とそれにどう対処するかは今後ますます重要になってくる世界的問題であり, それには森林・木材が深くかかわっている。しかし一般の者にとってはマスメディアを通じての断片的知識はあっても, 全体を知ることがなかなかむずかしい。本書は前半が, 序章「地球の炭素循環と森林・木材—温暖化対策を考える前提として—」, 第 1 章「温暖化防止京都会議の成果と課題」, 第 2 章「温暖化防止と森林・木材を巡る議論の経緯」, 第 3 章「Q&A 地球温暖化と森林・木材のかかわり」の 4 章からなり, それぞれの内容が図や表を使ってわかりやすく説明されている。後半は資料編で, 「気候変動に関する国際連合枠組条約」, 「気候変動枠組条約に関する京都議定書」などのほか, 用語解説, 参考文献などがあげられている。 (緒方 健)